



飯綱庁舎におけるセミの鳴き声の記録

●セミの鳴き声を聴く♪

長野県は南北に長く標高差も大きいため、日本全国に生息している 35 種類（北海道・本州・四国・九州で 16 種類）のセミのうち 12 種類がいますとされています。これらのセミは、地球温暖化などの環境の変化に伴い分布や鳴く時期が変わる可能性があります。飯綱庁舎（標高 1030 m）では、研究所にいる時にセミの鳴き声を聞いたカレンダーに記録を残しており、今回は調査を開始した 2012 年 5 月から 2026 年 6 月までの記録を図 1 のとおりまとめました。これによると、飯綱庁舎では長野県に生息する 12 種類のうちクマゼミとアカエゾゼミを除く 10 種類のセミの鳴き声がこれまで聞かれています。この 10 種類のうち、ハルゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、チッチゼミを除く 6 種類は毎年鳴き声が聞かれていて、エゾハルゼミは聞き始めと聞き終わりの時期が早まっている可能性があります。また、ヒグラシとエゾゼミ・コエゾゼミも聞き始めの時期が早まっている可能性があります。一方、アブラゼミとミンミンゼミは年によって鳴き声が聞かれた時期のばらつきが大きく、早まったり遅まったりといった変化はよく分かりませんが、この 2 種は飯綱庁舎の設立当初（1996 年）には鳴き声

が聞かれなかったとされており、完全に定着したと考えられます。また、ツクツクボウシが 2010 年代は 2015 年と 2018 年に聞かれたのみでしたが、2020 年代に入って以降、毎年鳴き声が聞かれるようになり、今後、定着するかどうか注目されます。

●音響モニタリングへの期待

窓から聞こえてくるセミの鳴き声をカレンダーに記録する調査には欠点もあります。それは、職員が飯綱庁舎に出勤していない土日祝日には、セミが鳴いても聞く人がいないので記録されないことです。コロナ禍で在宅勤務が普及した 2020 年以降は、2019 年以前に比べてセミが鳴いても記録できなかった日が増えていくかも知れません。つまり、図 1 の「聞こえた期間」は、「鳴いた期間」とは一致せず、この「聞いた日」と「鳴いた日」の差が 2020 年以降大きくなっている可能性があるのです。もし音響モニタリング支援システムが普及して、AI による自動種判別の技術が進歩することにより、セミの鳴き声の種類を自動的に判別できるようになれば、各種セミが鳴いている期間をこれまでよりも正確に把握できるようになると期待されます。

（栗林 正俊／自然環境部）

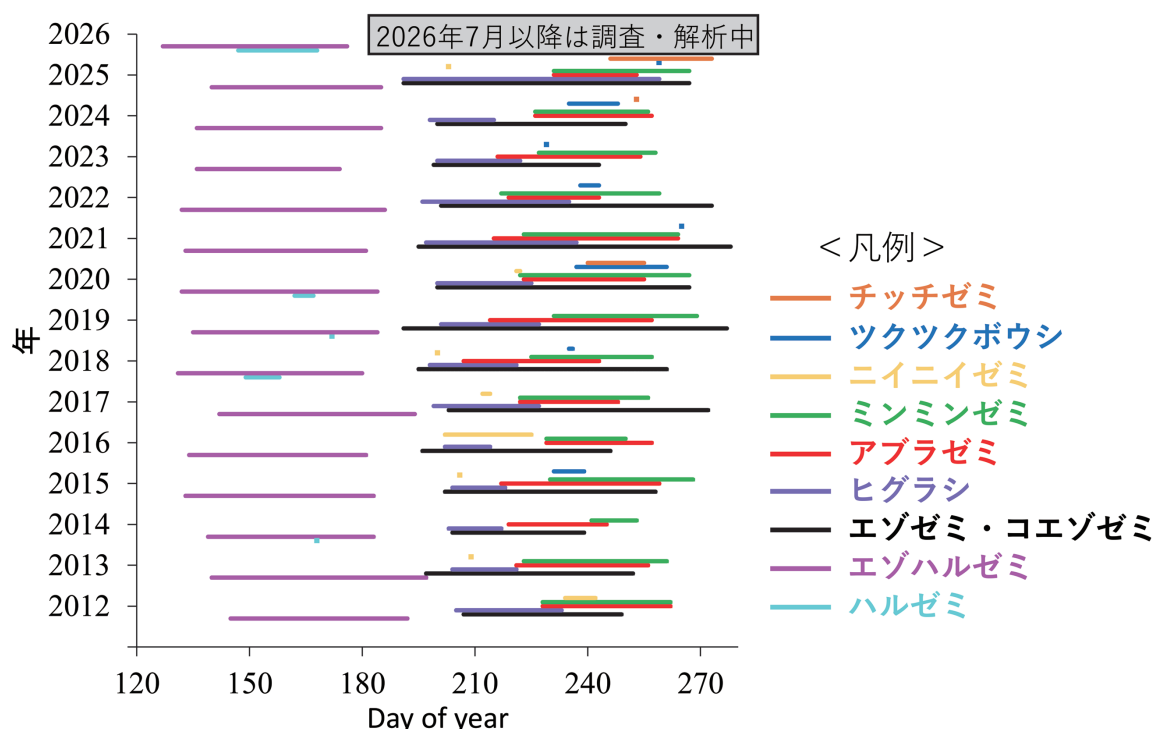


図 1 2012 年 5 月～ 2026 年 6 月に飯綱庁舎で各種セミの鳴き声が聞こえた期間
（エゾゼミとコエゾゼミは鳴き声が似ているため、グラフ上では同じ黒線で記載。）